「かぁさん、家にかえりたい。」

わずか2坪の空間。置き場所のないおもちゃや生活用品。
この狭い空間で、小児がんの子どもたちは半年以上にわたって病と闘いながら、
遊び、学び、そして、心身ともに成長していかねばなりません。

付き添う親に与えられた小さな簡易ベッド。隣と隔てるのはたった一枚の薄いカーテン。
熟睡できず疲れた身体で、隣を気遣いながら、わが子を案じ、いたわり、励ます親。

親子ともどもあふれ出る感情を押さえ込み、じっと我慢している空間。
離れている家族にも思いを馳せる空間。

「夢の病院は家です」
家には、この狭い空間にはない、本当は当たり前の「幸せな事」がいっぱいあります。